
原 著

看護学生の海外渡航者の医療に関する講義からの学び

近藤裕子¹⁾, 波川京子²⁾, 南妙子³⁾, 岩本真紀³⁾

¹⁾徳島大学医学部保健学科, ²⁾札幌医科大学医療保健学部看護学科, ³⁾香川大学医学部看護学科

要 旨 今日, 海外旅行や海外赴任者・移住者は年々増加の傾向を示している。これらの人々に対し, 看護はどのような役割を担い, 看護を提供することができるのかについて検討していく必要がある。

今後, 海外にでかける, 海外で生活する人々に対する医療や看護について教授する一助として, A大学の看護学生に行った海外渡航者の医療に関する講義から, 学生が何を学んだかとして記述したレポートを分析した。その結果, 学生はこの科目を履修することにより海外渡航者として必要な知識を学習し, そこにおける看護の重要性について学んでいた。今後, 学生が海外渡航者の医療や看護に対して, さらに認識や知識を深めるとともに, 看護の視野を拡大できるように授業内容を検討することが必要である。

キーワード: 海外渡航者, 医療, 看護, 学習

はじめに

看護系大学の理念には, 国際貢献や国際社会における活動などが掲げられている。カリキュラムにも国際看護学や国際保健学などの科目がたてられている。これらの科目を教授する教員は, 専任教員あるいは看護以外の他の分野の教員が兼任している大学とさまざまである。

21世紀の国際社会では, 各国が国境を主張しあい, ならみ合うのではなく, 国境に関係なく出入りできる近隣の国, つまり垣根のない国際社会の到来が期待される。物流や情報産業, 科学技術では国境を越えた活動が行われ, 異なる文化背景をもつ人間が移動している。お互いの国と人を理解し, 医療や看護を提供できる看護職者の育成は今後ますます重要となる。

国際社会にあわせて看護もグローバル化しているが, 国際医療や看護に関する先行研究では, 研究や教育の国際協力のあり方や役割¹⁻¹²⁾, 途上国における看護活動¹³⁻¹⁵⁾, 国際看護分野に関する文献検討¹⁶⁾, 医療や看護の現状か

ら国際看護学構築にむけた取り組み¹⁷⁻²⁰⁾などに焦点化していた。国内では企業で働く看護職が, 海外赴任する自社の職員やその家族を対象に, 健康教育・指導²¹⁻²⁵⁾などの実施が報告されている。

上述したように, 海外へ出かける日本人の増加, その人々の健康を維持し疾病予防にむけた活動は重要であり, その役割を担う第一人者は看護職であると考えている。そのために, 将来その任を担う看護学生に, 海外渡航者に対する専門的知識と技術の習得を目的とした教育内容を検討することは意義がある。

しかし, 今日の学校教育で学習している内容は, 主に諸外国の医療制度や発展途上国での活動などが中心となっており, 海外旅行者や海外で生活する日本人の医療や看護の提供状況まで目が向けられていない。今後, 国際社会の中で看護や医療が発展し活動していくには, 海外赴任者とその家族, あるいは在外邦人, 海外旅行に出かける旅行者に対して, 諸外国の医療や看護のあり方に関する知識を教育できるだけの, 基礎的能力を育成することは重要であるといえよう。

今日, 年間1700万人が海外に観光, 商用, 留学, その他の目的で渡航している。看護職としてそれらの人々の健康支援, あるいは国際社会で生活する人々に, 専門的

2004年11月30日受理

別刷請求先: 近藤裕子, 〒770-8509 徳島市蔵本町3-18-15
徳島大学医学部保健学科

な知識と技術を提供し、健康的に生活するような指導や教育には、まず看護職がどのような専門的知識や技術を習得することが必要であろうか。これからの国際看護に関する授業内容を検討するために、海外渡航者の医療に関する講義内容から学生が何を学んだかについて分析した。

目 的

看護学生が履修した海外渡航者の医療に関する授業から、何を学んだかについて分析し、今後の授業の資料とする。

方 法

1. 対象

2002年後期に実施した海外渡航者の医療に関する講義（30時間1単位）を履修したA大学看護学科4年生100人である。

2. 方法

講義終了後に、講義に関する感想や何を学んだかの学びについてのレポートを依頼した。レポートの分析は、学びについて記述してある箇所を、研究者間で合意を得て1文章が一つの意味を持つように書き出し、類似内容ごとに分類し、カテゴリー化を行いカテゴリーに名前を付けた。カテゴリーの信頼性に関しては、スコットの式を用いて計算した。一致率は79.4%であった。

3. 倫理的配慮

学生には調査の趣旨と評価に関係しないこと、個人名は特定できないこと、これからの授業を検討する資料とすることなどについて事前に説明した。その結果、全員から承諾が得られた。

科目の概要および他の科目との関連

本科目は、A大学のカリキュラムの中で、国際保健学に分類される教科群の一科目である。将来国際社会で活躍できる人材育成を目的とした科目であり、4年次後期に開講している。先行する関連科目として、国際保健、国際感染看護学などがある。国際保健では国

際的な健康課題や、発展途上国の健康問題、災害看護などについて学習する。国際感染看護学では、発展途上国の保健医療協力の必要性について学習している。

本科目は、上述の科目で教授されていない海外旅行者や海外赴任者、海外で暮らす長期滞在者などに対する医療問題や、移動時の航空機内での健康管理、海外渡航者に対するケアと健康管理などに焦点を当て、主として講義形式で行っている。

結 果

学生が記述した件数は127件抽出でき、これらは7カテゴリーと17サブカテゴリーに分類できた（表1）。

7カテゴリーは、「渡航に対する知識」「海外の医療」と「渡航者に対する看護」「看護の役割の拡大」「日本と海外の比較」「旅行医学に対する新たな発見」「その他」であった。

「渡航に対する知識」のカテゴリーは、「自分が行くときの知識として」「渡航に対する知識」の2サブカテゴリーに分類できた。「海外の医療」に対するサブカテゴリーには、「海外の医療事情」「機内の設備やサービス」「海外の医療費」「感染症対策の必要性」「機内の医療や看護」の5サブカテゴリーに分類できた。「渡航者に対する看護」では、「渡航者への指導内容」「渡航者に対する看護があること」の2サブカテゴリーに、「看護の役

表1 授業からの学び

n=100 総ラベル件数127件 一致率79.4%

カテゴリー	サブカテゴリー
渡航に対する知識 (42)	自分が行くときの知識として (29)
	渡航に対する知識 (13)
海外の医療 (30)	海外の医療事情 (12)
	機内の設備やサービス (9)
	海外の医療費 (5)
	感染症対策の必要性 (2)
	機内の医療や看護 (2)
渡航者に対する看護 (20)	渡航者への指導内容 (11)
	渡航者に対する看護があること (9)
看護の役割の拡大 (13)	看護師の働く場の拡大 (8)
	看護の幅の広がり (4)
	看護の役割拡大における疑問 (1)
日本と海外の比較 (11)	日本と海外の違い (8)
	日本の再認識 (3)
旅行医学に対する新たな発見 (5)	旅行医学に関する学び (3)
	旅行することがりハズリにつながる (2)
その他 (3)	その他 (3)

() 内は件数

割の拡大」では、「看護師の働く場の拡大」「看護の幅の広がり」「看護の役割拡大における疑問」の3サブカテゴリーであった。「日本と海外の比較」のカテゴリーは、「日本と海外の違い」「日本の再認識」の2サブカテゴリーに、「旅行医学に対する新たな発見」では「旅行医学に関する学び」「旅行することがリハビリにつながる」の2サブカテゴリーに、「その他」は「その他」の1サブカテゴリーに分類できた。

考 察

国際保健や国際看護を開講している大学の講義内容には、「熱帯病、感染症」、「難民、災害、緊急援助」、「在日外国人」がキーワードとなっており、主に途上国を対象に健康問題をとらえている¹⁹⁾。今回のように、海外渡航者の医療に焦点化し講義内容を組み立てている文献はみられない。

学生のレポートの分析より、学生の記述件数が最も多かったカテゴリーは、「渡航者に対する知識」である。このカテゴリーの内容からは、渡航者に対しても看護が存在すること、これらの人々には看護の役割として指導が重要であることを学んでいる。看護の対象は看護を必要としている人であるが、学生が実習で接する対象は、主に疾病を有する人、地域で生活する健康な人などであり、海外に旅行にでかける人や海外から日本に来る人、特に前者に対して看護の対象であるとの認識は低いと考える。今回の講義内容から、海外渡航者に対する保健指導や、個別指導、滞在・訪問する国の医療事情や感染症に対する情報の提供、正しい知識の提供などに看護が大きな役割を持っていることを学んでいる。さらに自分が海外に行くときに役立つ内容であることから、身近な問題としてとらえている。レポート内容からは、渡航には事前準備の重要性や、滞在国の医療事情に関する情報収集の必要性などがあげられている。渡航する時には、事前にきちんとした渡航先の国の情報を入手し、対応することの重要性を学んでいる。

次に記述件数が多かった「海外の医療」に関しては、日本では無料の救急車の使用が有料であることや、海外で病気になると日本の皆保険とは異なり、莫大な費用がかかることなどの講義内容から、海外の医療事情に関する知識を情報収集して渡航することの重要性や、その国の医療事情を十分に理解していないと日本の医療事情と異なることなどについて学んでいる。各国の医療制度や

保険制度を熟知することの重要性や、外国では健康管理・疾病管理・危機管理の難しさ、緊急時の搬送方法と費用などの講義内容は、新たな知識としてとらえている。さらに航空機内の装備品や航空機内で病人食が提供されること、ストレッチャー搬送が可能であることや、搬送方法と費用、などについても同様のとらえ方をしている。これらの学びから学生は、渡航者への保健指導や感染症対策についての詳細な指導が、看護職の役割であると、渡航者の看護の内容に対する認識を深めている。

「看護の役割の拡大」のカテゴリーでは、看護師の働く場が施設内や施設外だけでなく、検疫所や海外の企業においても看護師が働いていることを知り、働く場所は国内でも医療施設や企業だけでなく職場があることや、国外においても活躍の場があることから、看護の場が拡大していると認知している。看護の対象には、渡航者や海外赴任者・移住者なども含まれ、それらの人々にはケアだけでなく指導・教育に焦点を当てた看護が求められていることを学んでいる。学生は、疾病を持った人や、地域の健康な人が対象であるとの考えから、海外渡航者や海外赴任・移住者も看護の対象となること、看護の対象が拡大することにより看護が行われる場も拡大していると認識しており、看護に関する視野を広げていると考える。しかし、学生の中には、障害をもつ人が海外にでかける機内での設備等の説明は、アテンダントの仕事でないかと疑問をなげかけ、どこまでが看護職の仕事か分からないといい、看護の役割拡大に疑問をなげかけている者もいる。

「日本と海外の比較」では、社会情勢や医療制度の違いを学習することにより、日本のよさを再認識している。特に、医療機関への受診の仕方や、健康診断が日本独自のものであるとの講義からは、渡航先で病気になると大変であることを実感している。

「旅行医学に対する新たな発見」については、海外渡航者・赴任者、移住者を対象とした旅行医学について、さまざまな視点から学習している。また、講義の中で提示されたりハビリの一環として海外旅行が行われている事例から、海外旅行は遊びや観光だけでなく、社会復帰をめざすリハビリの一方法であると学習している。

上述した看護学生のレポートの分析から、学生は本科目を履修することにより、講義の中から看護の対象が渡航者も含まれることや、渡航者に対する看護があることを学んでいる。そして渡航に関連する渡航前の看護や、航空機の中における看護、さらに渡航先での医療や看護

の学習から、今まであまり認識していなかった渡航者に対する看護について、認識を深めることができている。

以上より、学生が将来国際社会で活躍できる基盤科目の一つとして、学生の身近に存在する旅行者や、海外赴任者・帯同家族などを取り上げた今回の講義内容は、学生の興味・関心を高めている。そして看護の対象や場の拡大について学んでいる。

今後、学生が海外渡航者の医療や看護に対して、さらに認識や知識を深めるとともに、看護の視野を拡大できるように授業内容を検討していくことが課題である。

結 論

看護学生は、海外渡航者の医療に関する講義から以下の内容を学んでいることが明らかとなった。

1. 学生は海外渡航に関する医療の知識だけでなく、看護の対象や看護の場の拡大を学んでいる。
2. 看護の対象には、渡航者や旅行者も入ること、その人たちの看護として指導・教育が重要であることを学んでいる。
3. 海外における医療制度や医療状況の知識から、日本独自の医療制度の長所について学んでいる。
4. 海外旅行が社会復帰としてリハビリの一環となることについて学んでいる。
5. 今回の講義内容は、自分が海外旅行に出かける場合に活用できることを学んだと認知している。

文 献

- 1) 見藤隆子:アジア・太平洋地域の看護学国際協力の成果と展望 看護国際協力のための各国の状況と日本の現状, *Quality Nursing*, 10(5), 469-471, 2004.
- 2) 片田範子:アジア・太平洋地域の看護学国際協力の成果と展望 看護の成長 なぜアジア太平洋地区の看護職が国際的にならなければならないか, *Quality Nursing*, 10(5), 467-469, 2004.
- 3) Pang Samantha Mei-che:アジア・太平洋地域の看護学国際協力の成果と展望 看護研究異文化間共同研究の経験, *Quality Nursing*, 10(5), 461-467, 2004.
- 4) Aiavao Filisia Pita-Uo:アジア・太平洋地域の看護学国際協力の成果と展望 看護教育における国際協力 サモア国立大学と長野県看護大学との事例から, *Quality Nursing*, 10(5), 459-461, 2004.
- 5) Ronghui Zhou:アジア・太平洋地域の看護学国際協力はなぜ必要か SARSの教訓と看護学国際協力の必要性, *Quality Nursing*, 10(5), 454-458, 2004.
- 6) Wong Thomas, K.S.:アジア・太平洋地域の看護学国際協力はなぜ必要か 国際協力研究プロジェクトの視点, *Quality Nursing*, 10(5), 449-454, 2004.
- 7) ChoYu Mei:アジア・太平洋地域の看護学国際協力はなぜ必要か 教育交流の視点, *Quality Nursing*, 10(5), 445-449, 2004.
- 8) 藤田公郎:保健医療分野における我が国の開発協力, *Quality Nursing*, 10(5), 441-440, 2004.
- 9) Kim Euisook:看護政策への国際協力の意義 教育・研究・実践の視点, *Quality Nursing*, 10(5), 436-440, 2004.
- 10) Frisch Kathleen:アジア・太平洋地域の保健医療の動向と看護学国際協力の役割 WHOの視点, *Quality Nursing*, 10(5), 431-435, 2004.
- 11) 堀内成子, 有森直子, 江藤宏美 他:国際協力にむけての看護教育 国際看護コラボレーター育成, 看護教育, 44(12), 2003.
- 12) 森淑江:国際看護協力に関する研究, *THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL*, 51(5), 365-336, 2001.
- 13) 丹野かほる:国際看護活動における女性性器切除(FGC)への対応, *Quality Nursing*, 8(9), 765-772, 2002.
- 14) 横川裕美子, 森淑江, 戸塚規子 他:看護職による国際協力活動の還元に関する研究 -国際看護協力の異文化適応の視点からの考察-, *THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL*, 52(5), 361-368, 2002.
- 15) 田中博子, 戸塚規子, 森淑江 他:看護分野における国際協力活動-ネパール教育病院に派遣されたJOCV看護職隊員の業務の継続性, 神奈川県立衛生短期大学紀要, 34, 36-42, 2002.
- 16) 平岡敬子, 吉野純子:国際看護分野の文献量と研究動向の分析, 看護学統合研究, 4(1), 3-7, 2002.
- 17) 中田りつ子, 成沢和子, 畔上真子 他:海外短期研修の分析から国際看護学構築へ向けての一考察, 信州大学医療技術短期大学部紀要, 27, 25-40, 2001.
- 18) 赤澤弥子:「国際看護論」の展開-米国研修を組み込んだ実践報告, 看護教育, 40(3), 228-233, 1999.
- 19) 竹内祐子, 森淑江, 中村安秀:看護基礎教育における国際保健・国際看護に関する教育-カリキュラム

- 関連資料からの全国看護系大学と短期大学の比較一，鳥取大学医療技術短期大学部紀要，30，9-17，1999.
- 20) 大西真由美，加納尚美：国際保健医療活動の授業展開とその評価，茨城県立医療大学紀要，8，119-127，2003.
- 21) 松尾陽子：産業看護職としての企業における海外医療へのかかわり方，海外勤務と健康，17，39-42，2003.
- 22) 橋本千佳子：産業看護職としての企業における海外医療へのかかわり方ー海外勤務者の生活習慣に関するアンケート調査よりー，海外勤務と健康，18，36-39，2003.
- 23) 川上桂子：看護職としての海外医療へのかかわり方，海外勤務と健康，19，36-39，2004.
- 24) 倉橋るいみ：海外渡航前教育に関する調査からみた海外派遣労働者の健康管理，海外渡航者健康を考える会講演集（第5回大会），海外渡航者健康を考える会，37-46，2002.
- 25) 松田美香：海外渡航者の健康受診管理，海外渡航者健康を考える会講演集（第5回大会），海外渡航者健康を考える会，56-64，2002.

What nursing students learned from lectures on medical care for foreign travelers

*Hiroko Kondo*¹⁾, *Kyoko Namikawa*²⁾, *Taeko Minami*³⁾, and *Maki Iwamoto*³⁾

¹⁾Major of Nursing, School of Health Sciences, The University of Tokushima, Tokushima, Japan

²⁾School of Nursing, Faculty of Medicine, Sapporo University, Hokaido, Japan

³⁾School of Nursing, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan

Abstract The number of Japanese people who take tours overseas, are stationed in overseas offices, or who emigrate to other countries has recently been increasing, year by year. This study was intended to shed light on what roles nurses can play and what kinds of nursing services they can provide to these people.

The author recently analyzed reports submitted by A University nursing students after they had received classroom lessons about medical care for overseas travelers. The goal of the analysis was to obtain hints about how to teach students about medical and nursing care for people who are going to take tours overseas or live in other countries. The analysis revealed that attending these lessons had enabled the students to expand their knowledge of overseas travel and to learn the importance to these people of nursing care. The results suggest that it is necessary to select lecture topics carefully with a view to facilitating expansion of the students' mental horizons concerning nursing, so that what the students learn will be of great help when they work in the internationalized community that is now emerging across the world.

Key words : overseas passenger, medical care, nursing, learning